

一言文  
致小學作文書

尋常科用  
第四

一言文一致

此ノ書ハカメテ一言文ノ致ヲ期ス抑  
モ一言文ヲシテ一致ナラシメントスレ  
バ文體ハ成ルベク言語ニ近キモノ  
ヲ取り言語ハ成ルベク心シクシテ  
文章ニ近ケザルベカラズ故ニ本  
書ノ文體ハ流暢圓滑ニシテ  
言語ニ近キモノヲ取り言語ハ文  
章ニ近クシテ最モ世間ニ通用  
廣キモノヲ選ベリ

K121.82  
30  
4

K121.82

30

4

U. 23564 23

學園會編纂

言文

一致 小學作文書

尋常科用 第四

東京 教育書屋藏版

言文 一致 小學作文書第四

凡例

一、本卷ハ尋常小學科第四學年ノ課程ニ照シ、簡易ナル漢字交リ文、及日用書類ヲ記載シタルモノニテ、前卷ニ比スレバ稍密ニ入り、本卷ニ至リ始メテ普通簡易ノ記事文及日用書類ヲ綴リ得ルニ至ラシム。

二、文題ハ兒童ノ經驗及想像外ノモノヲ避ケ、其心情ニ恰當シテ解シ易ク、且實用ニ適切ナルモノヲ撰ベリ。

言文 小學作文書 第四

№ 3564/23

一致小學作文書第四

凡例



本卷ハ尋常小學科第四學年ノ課程ニ照シ、簡易ナル漢字交リ文及日用書類ヲ記載シタルモノニテ前卷ニ比スレバ稍密ニ入り、本卷ニ至リ始メテ普通簡易ノ記事文及日用書類ヲ綴リ得ル

ニ至ラシム。

ニ文題ハ兒童ノ經驗及想像外ノモノヲ避ケ、其心情ニ恰當シテ解シ易ク且實用ニ適切ナルモノヲ撰ベリ。

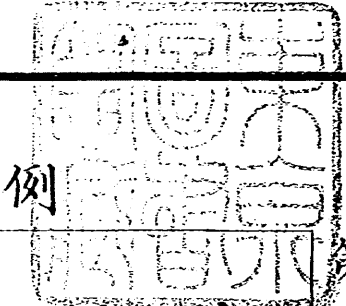
明治廿三年三月

學園會

Blank area for student writing.

一致小學校作文書第四

第一課 新年ヲ賀スル文。



例

恭しく新年を賀す。

其後ハ清々沙汰に打過

ぎ、海客下され度也。

恒所。

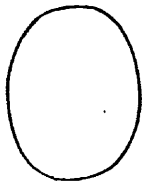
明治三年一月一日

姓名。

例

〓 國 〓 郡 〓 村 〓 番 地

姓 名 様



郵便はかき

此表面より宿所姓  
名を限り認むべし

第二課 安否ヲ問フ文。

第一例 時候見舞ノ文。

言 コノゴロハフジニシノジヨウデアリマスガアナタ  
オカフリモアリマセヌカ。オミマヒマウシ アゲ  
マス。

文 此頃は不順の時候に於て貴君  
滞りも之なく也。此見舞  
上以上。

第二例。 同返事。

言 オホセノトホリ、フジニシノジヨウデアリマスガ  
ワタシユト、フジニベンキヤウイタシテ井マスカラ

ハバカリナカラ、コアシシクダサイ。

仰せの如く不順の時催に由委、私事多しに勉強いたし居候旨、  
憚りながら済あ心下さるべく候。  
頓首。

練習。

次ギノ談話体ヲ文章体ニ改メヨ。

寒中見舞ノ文。

(一) 厳しい寒さでありますがあなたぶ

でござりますが。おままひまうーあげます。

無沙汰ラブル文

(二) 其後はごぶさたいたしまたが、あなたお  
かはりもありませんか。おままひまうーあげ  
ます。

次ギノ題ニ由リテ、手紙文ヲ書ケ。

- (一) 寒中見舞に答ふる文。
- (二) 暑中見舞に葡萄酒をわくる文。

第三課。

報知ノ文。

例。轉宅ヲ知ラスル文。

言  
ワタクシ、ツガフニヨリ、コノタビニ、子ニ、ジチヘ  
ヒキウツリマシタカ、コノ多シオシモ、マシアゲヌ  
私儀都合により、此度、町番  
地へ引移り申上。此後、此後、知らせ  
申上。以上。

練習。

歸宅ヲ知ラスル文。

(一)私昨夜無事に歸宅し、またからご

あん、ん、く、だ、さ、い、ま、す。この、だ、ん、れ、い、ら、せ  
ま、う、い、ま、す。

入學ヲ知ラスル文。

(二)私昨日から高等小学校へ入學いたしました。  
た、か、ら、こ、の、だ、ん、れ、い、ら、せ、ま、う、い、ま、す。

出立ヲ知ラスル文。

(三)私事、高業見習のため明日東京へ出立  
ま、す、か、ら、こ、の、だ、ん、れ、い、ら、せ、ま、う、い、ま、す。

次ギノ手紙文ヲ書ケ。

(一) 試驗及考を知らする文。

(二) 病氣全快を知らする文。

第四課。人ヲ招ク文。

例 相談アリテ人ヲ招ク文。

ゴサウダシイタシタイコトガアリマスカラゴクラク  
ナガラ、ミヤウニチゴゴサンジゴロ、ワタシノウチへ  
オイデクダサイマシ。

〔文〕 済相控いたし度事之ありゆ旨、済  
若勞ながら明日午後三時頃拙宅へ

〔済出下され度ゆ。頓首。〕

練習。

次ギノ 談話体ヲ 文章体ニ改メヨ。

急用アリテ人ヲ招ク文。

(一) 至急済相控いたしたい事がありますから、済  
若勞ながら、れいでくださいまし。

誕生日ニ友ヲ招ク文。

(二) 今日私の誕生日につき、夕飯をあけたい  
から、午後四時に、れいでくださいまし。



次ギノ手紙文ヲ書ケ。

(一) 紀元節キゲンセツに密ヒソカを招く文。

(二) 荏見ニミに友を招く文。

第五課。人ニ招カルル返事。

例。相談ニ招カルル返事。

言  
オテガミノオモムキ、シヨウチイタシマシタ。オホセノ  
ジカンニハ、サウ井ナクマ井リマシヤウ。

文  
清手紙の趣承知致し仰せの  
時間には相違なく糸上仕るべく

練習。

次ギノ談話体ヲ文章体ニ改メヨ。

招キヲ断ル文。

(一) 清手紙お見いたしました。折角セツカクの招オホセはせなれ  
ども、今日はびようきでまゐられませぬ、あーから  
ずおほーめーくださいまし。

招カル、ニ答フル文。

(二) 本日は紀元節ホンジンにつきおまねき下さりまして、  
ありがたうございます。ミニ時頃トキゴロにはさうあ

なくまゐりまゝやう。

第六課。謝禮ノ文。

例。馳走ニ預リシヲ謝スル文。

言 センジツハマ井リマシテ、イロイロゴチツニアヒナリ、アリガタウゾシマス。スコシデスガ、ナシヒトカゴ、オコサマガタへ、サシアゲマス。オウケトリクダサイマシ。

文 先日<sup>ハ</sup>はまかり出種<sup>ノ</sup>河<sup>ヲ</sup>馳走<sup>ニ</sup>に相成<sup>リ</sup>有<sup>リ</sup>かたく存<sup>ス</sup>。此<sup>レ</sup>少<sup>ク</sup>なから梨<sup>ヲ</sup>一籠<sup>ヲ</sup>河<sup>ノ</sup>子<sup>ノ</sup>様<sup>方</sup>へ<sup>ハ</sup>進<sup>上</sup>いた<sup>ス</sup>。此<sup>レ</sup>受<sup>取</sup>納<sup>ス</sup>

下さるへくひ。頓首。

練習。

次ギノ手紙文ヲ書ケ。

- (一) 菓物を贈られしを謝する文。
- (二) 野菜を贈られしを謝する文。
- (三) 菓物を贈られしを謝する文。

第七課。問合セノ文。

例。書物ノ代價ヲ問合スル文。

コノタビオタナデウリダシマシタルニ、ボシレキシハ

言人 タイカ、ナニホドデスカ。オセ六サマデモ、オシラセ  
クダサイマシ。

文 此度貴店にて賣出の日本歴史  
は代價何程に由也。御手数教ながら  
通知らせ下され度由。

練習。

次ギノ手紙文ヲ書ケ。

椅子ノ有無ヲ問合スル文。

(一) 明日の客がまわりますから椅子四脚おかり

まうーたいが。たうぶんふよりのーながあり  
まーやうか。ちよつと、おうかがひまうーます。

在<sup>ザイ</sup>宅<sup>タク</sup>ノ有<sup>ア</sup>無<sup>ム</sup>ヲ問<sup>ト</sup>合<sup>ゴ</sup>スル文。

(二) 先日おはなすまうーおきまゝたる事で、明  
日まわりたいが御<sup>オ</sup>宅<sup>タク</sup>に居<sup>イ</sup>られ<sup>レ</sup>ますか。おう  
かがひまうーます。

同返事。

(三) 御<sup>ゴ</sup>書<sup>ショ</sup>面<sup>メン</sup>お見<sup>ミ</sup>いた<sup>イ</sup>た<sup>タ</sup>ました。明日は在<sup>ザイ</sup>宅<sup>タク</sup>下<sup>カ</sup>す  
から、おいでくださいまし。

次ギノ手紙文ヲ書ケ。

- (一) 蒸汽船出帆の期日を同合する文。
- (二) 出発の人に帰宅の日を同合する文。
- (三) 生糸の相場を同合する文。

第八課 注文ノ文。

例。新聞紙ヲ注文スル文。

言  
ニ、ニ、シンゲンシ、サンガダブンノダイキン、クジツセ、コノテガ  
ノナカニフウジテアゲマスカラ、マイニチ、オクリクダサイ。

ニ、ニ、新聞紙三ヶ月分の代金九拾錢。

文  
此書状中に封ト入差上亦買日と注  
配達下され度也。

練習。

- (一) 習字本式拾部注文する文。
- (二) 茶五百斤注文する文。
- (三) 桑苗を注文する文。

第九課 催促ノ文。

例。注文ノ品ヲ催促スル文。

センジツゴチサモンイタシマシタシナモノ、マダ名ウ、チヤク

言 イタシ マセヌ デ、ハナダ コリマシタ。アイナルベクシ  
キフ オクツ テクダサイマシ。

文 先日御注文致し申す物今以て到  
着いたさず甚だ困り申す相成るぞ  
至急御送り下され度申也。

練習。

(一) 貸金催促の文。

(二) 懸賞せし取物の代償を同合する文。

第十課。 出荷案内ノ文。

例。

言 ゴチウサモンノ シヨモツ、コシニチキヤビシデツギノ  
トホリ サシアゲマス。コノダンゴ アンナイ マウシ アゲマス。

文 御注文の書物本日汽車便にて到  
通り着上申。此御案内申上者也。

一日本讀本 吉部

此代金四拾八錢也。

右之通り。

練習。

次ギノ 出荷案内書ヲ書ケ。

(一) 白木綿<sup>シロモ</sup> 式<sup>ニ</sup>百端<sup>ハツク</sup> 但<sup>ル</sup> 式端<sup>ニ</sup>付三拾六錢。

(二) 高机<sup>ニ</sup>六脚<sup>ニ</sup> 但<sup>ル</sup> 式脚<sup>ニ</sup>付五拾錢。椅子四脚。但<sup>ル</sup> 式脚<sup>ニ</sup>付七拾五錢。

第十一課。見舞ノ文。

第一例。病氣見舞ノ文。

言  
ハイケイ。センコロカラゴビヨウキノコトヲキキマシ  
タガ、コノゴロハイカガデゴザリマスカ。オミマヒノ  
シルシマデニクウシヒトヲリサシアゲマス。

文

拜啓。先頃より此病氣の由に承  
り申度此頃はお月<sup>ツキ</sup>に出望<sup>イデ</sup>也。  
清見舞の原迄に菓子一折送上  
いたし。頓首。

第二例。火事見舞ノ文。

言  
ハイケイ。サクヤハゴキンジョニクワジガアリマシタリ  
デシタガ、アナタノオタクハゴブジデアリマシタ  
カ。トリアヘズ、オミマヒ、マウシ、アゲマス。

折也。昨夜は御直所に火事これ

文  
ありゆ由承りゆ受貴宅滞無難に  
入らせられゆ也。取あ(ずは)見舞中  
上作頓首。

練習。

(一)大風見舞の文。

(二)大水見舞の文。

(三)病氣見舞に答ふる文。

第十二課 祝ヒノ文。

例。賞與ニ預リシ人ヲ賀スル文。

言  
ハイケイ。アヌヘイゼイギヤウジヤウガ多シイニヨツテ、  
カウキヤウカラゴウビライタダキマシタソウデ、オオテ多  
クジマス。マツハオイヒマテカクノトホリデゴザリマス。  
文  
捧啓。先君平生行状平々きにより  
校長より滞寝美にあづかりゆ由目  
出度存一奉りゆ。先滞祝ひまで  
此の如くに由望を也。

練習。

(一)試験及第を賀する文。

(二) 入學を賀する文。

第十三課 一般演習。

次ギノ談話体ヲ文章体ニ改メヨ。

注文物ノ品切ヲ斷ル文。

(一) 清注文の……品切品切でありますから、  
まありーだいにすぐにくります。

約束ヲ斷ル文。

(二) 明日……へ花見に係る清約束……  
がよりどころない用事ができま……たから、

ことばりまう……ます。あ……からず、  
くたさります。

來訪ノ人ニ謝スル文

(三) 昨日は甚かき清……  
すで……いた……た。左……  
うち……下さいま……。

作文ノ添削ヲ頼ム文。

(四) 清……  
の……の作文……  
……



學校へ欠席届ヲ頼ム文。

(五)私儀、今日、病氣で不素フサンいたりますから、済せ  
わさまでもこの欠席届校長へ済差出  
下さいませ。

買物ヲ頼ム文。

(六)明日東京へ済出なれば此面倒ゴメンガタでも、……  
済買カヒ求め下さいませ。よつて金貳圓此頼み  
します。

見舞ニ預リシヲ謝スル文。

(七)私事病氣の節、度々此見舞下さりま  
て、ありがたう存じます。済陰カゲを以て病  
氣中快ヨクよく暮クラました。賜儀カヒながら書状シヨウジツ  
を以て済禮レイ申上ります。  
次ギノ趣意ヲ以テ手紙文ヲ作レ。

遠方へ物ヲ贈ル文。

(八)時候。 〇安否ヲ問フ。 〇品物ヲ贈ルコト。  
〇尊敬ノ語。(願首謹言ノ類)

遠方ニ在ル友ノ安否ヲ問フ文。

(九)時候。 曰安否ヲ問フコト。 曰自分ノ無事ヲ知ラス。  
曰餘ハ後便ニ申送ルト云フコト。

出立ヲ知ラスル文。

(十)拜啓。 曰長々世話ニナリシコト。 曰何處ニ出立ス  
ルト云フコト。 曰御禮カタガタ報知スルト云フコト。

第十四課。

例。

稻ハうるちもちノ別アリ。夏ノ中頃苗  
ヲ田ニ植エ、秋ニ至リテ熟ス。其ノ穀ハ

飯ニ炊キ、或ハ酒ヲ造ルベシ。

練習。

- (一) 麥。
- (二) 豆。
- (三) 粟。

第十五課。

例。

梅ハ春ノ初メニ花開キ、白色又紅色ニ  
シテ香極メテ好シ。實ハ鹽ニ漬ケテ、  
梅干ヲ製スベシ。

練習。

- (一) 桃。
- (二) 季。

第十六課。

例。

傘ニハ日傘雨傘アリ。イヅレモ割竹ヲ  
骨トシ之ニ厚キ紙ヲ粘リテ製ス。日光  
又ハ雨ヲサクルモノナリ。

練習。

- (一) 蝙蝠傘。
- (二) 扇。
- (三) 蚊帳。

第十七課。

次ギニ掲ゲタル語句ヲ用ヒテ文章ヲ作レ。

蟻。

- (一) 桑ノ葉ヲ食フ。 生長。 繭ヲ作ル。 繭
- ヨリ糸ヲトル。 絹ヲ織ル。

寒暖計。

- (二) ガラスニテ細キ管ヲ製ス。 水銀ヲ盛ル。
- 水銀ノ上下ニテ寒暖ヲ計ル。

靴。

- (三) 半靴長靴アリ。 獸皮ヲ以テ製ス。 雨天。

晴天。

筆。

(四)毛ヲ以テ造ル。竹又ハ木ノ柄ヲ附ク。

文字ヲ書ク。畫ヲ寫ス。

第十八課。

例。

鰯ハ海魚ニシテ體小サク、色青シ。其ノ肉ハ食用ニ供シ、又燈油ヲ製スベシ。

練習。

(一)鰯。

(二)鰯。

第十九課。

例。

鷺ハ白色ニシテ、足頸共ニ長キ鳥ナリ。常ニ淺瀬ヲ涉リナガラ、魚ヲ捕ヘテ食フ。

練習。

次ギノ談話体ヲ文章体ニ改メヨ。

鶴。

(一)鶴ハ鷺ノヤウニアサセヲワタリナガラ、シヨク

モツヲサガシマス、ユエニアシ、クビクチバシガナガクテ、水ノナカデシヨクモツヲモトルニベシリデアリマス。

水鳥

(二) 雁鴨ノ類ハフカイトコロニ入りテ、シヨクモツヲモトメマス、ユエニアシニ水掻キガアリマシテ、オヨクニベシリデアリマス。コレヲノトリヲスベテミヅトリトマウシマス。

第二十課

例

菊ハ十月頃黄白赤等種々ノ花ヲ開ク故ニ庭園ニ植エテ其花ヲ賞ス。

練習

- (一) 楓
- (二) 朝顔

第二十一課

例

柿ハ夏ノ初メニ白キ花開キ秋ニ至リテ實熟ス。其ノ果ハ生ニテ食ヒ、又乾カシ

テ蓄フルコトヲ得。

練習。

(一) 林檎。

(二) 栗。

(三) 梨。

第二十二課。

例。

帆舞船ハ風ノ力ヲ借り、帆ヲ張リテ走ル  
船ニシテ、人ヲ乗セ、又ハ荷物ヲ運送スル  
ニ用ヒラル。

練習。

(一) 蒸気船。

(二) 馬車。

(三) 人力車。

第二十三課。

例。

杉ハ喬木ニシテ、其葉針ノ如シ。其ノ材  
木ハ家船及ビ諸ノ器具ヲ作ルニ用フ。  
皮ハ又屋根ヲ葺クニ用ヒラル。

練習。

(一) 松。

(二) 檜。

第二十四課。

次ギノ語句ヲ用ヒテ文章ヲ作レ。

ツギキ。 櫛

(一) 喬木ナリ。質堅シ。材ハ薪炭トナス。皮ハ染物ニ用フ。

綿。

(二) 諸國ニ産ス。實ヨリ毛ヲ取ル。木綿ヲ織ル。種ハシボリテ油ヲ製ス。

トビ。

(三) 人里ニ住ム。眼丸シ。爪鋭シ。羽ハ茶

褐色ナリ。動物ヲ食フ。腐敗セル魚

鳥ノ肉ヲ食フ。

ツグミ。 鶯

(四) 茶色ニ緑ヲ帯ブ。春ヨリ夏ニカケテ轉ル。聲諸鳥ニ冠タリ。人ニ愛セラル。

アリ。 蟻

(五) 夏ノ間ニ働ク。食物ヲ穴ノ中ニ貯フ。冬ニ至ル。食物ニ乏シカラズ。

ハチ。 蜂

(六)夏ノ間ハ花ノ甘キ汁ヲ貯フ。蜂蜜。  
花ナキ時。食物ニ乏シキコトナシ。

第二十五課。

例。

銀ハ白色ニ青色ヲ帶ビ光強クシテサビ  
難ク黄金ニ次ギテ價貴キ金ナリ。通常  
貨幣ヲ造リ又諸ノ飾物ニ用ヒラル。

練習。

- (一)黄金。
- (二)鐵。

第二十六課。

例。

蓮ハ沼池ニ生スル植物ニテ莖長ク葉丸  
シ。花ハ白或ハ薄紅ニテ甚ダ美シ。實  
ト莖ハ共ニ食用ニ供スベシ。

練習。

- (一)クワ井(慈菇)。
- (二)サツマイモ(甘藷)。

第二十七課。

例。



犬ハ其性馴レ易ク人家ニ養ハル。能ク  
夜ヲ守リ又獸獵ノ助ヲナス。其ノ革ハ  
敷物トシ又大鼓ヲ張ルベシ。

練習。

- (一) 猫。
- (二) 牛。

第二十八課。

次ギノ語句ヲ用ヒテ文章ヲ作レ。

鹿。

(一) 山林ノ中ニ棲ム。脚細シ。疾ク走ルコト

巧ナリ。性柔和。草木ノ葉及ビ芽ナド  
ヲ食フ。皮ハ敷物トスベシ。皮ハ革ニ製  
スベシ。

羊。

(二) 人ニ畜ハル。毛細シ。毛長シ。紙ヲ食フ。  
毛ハハサミテ羅紗ヲ織ルベシ。肉ハウマク  
シテ食用ニ供スベシ。

茶。

(三) 灌木。暖地ニ適ス。春若芽ヲ摘ミトル。

蒸ス。揉ム。乾カス。飲料。

葡萄

(四)蔓生。地ニハヒ、或ハ棚ニマトフ。春小サキ  
花開ク。夏實ヲ結ブ。味甘ク酸シ。

菌

(五)種類多シ。秋最モ多ク出ヅ。松茸。椎  
茸。初茸。煮テ食フ。香アリ。味ヨシ。

第二九課

例 紀元節。

紀元節ハ二月十一日ニシテ、神武天皇御  
即位ノ日ナリ。コノ日ハ日ノ丸ノ國旗  
ヲアゲ、人民各其ノ業ヲ休ミ、日本帝國ノ  
萬歳ヲ祝スル日ナリ。

練習。

- (一)天長節。
- (二)神嘗祭。

第三十課。

例 櫻。

櫻ハひがんだくらやまざくら、いざくら

一致、器、作、  
キ、ロ

等アリ。花ハ四月頃枝ノ頂ニ咲キ、其色  
白ク、少シク紅色ヲ帶ブ。材質堅クシテ、  
種々ノ器具ヲ作ルニ宜シ。實及ビ花モ  
亦食フベシ。

練習。

- (一)梅。
- (二)桃。

第三十一課。

次ギノ談話体ヲ文章体ニ改メヨ。

キツ、キ(啄木鳥)。

(一)キツ、キハツ子ニ水ヲツイテ水ノナカニ  
井ル虫ヲクヒマス。ユエニクチバシガカタクツ  
ヨクテ、水ヲツクニベンリデアリマス。又足  
ハマヘウシロニオノオノフタツノユビガアリマシ  
テツノツメガスルドク水ニツカマルニベンリデ  
アリマス。

神功皇后。

(二)神功皇后ハ仲哀天皇ノ御后デアリマス。  
昔シ三韓ヲ征伐シテ長クワガクニニ

貢物ヲタテマツラセマシタ。

楠正成

(三)楠正成ハ河内ノ國金剛山ノ城ニコモリマシテ、北條氏ガ八十萬ノ大軍ヲ引キ受ケテ、夕ヒ夕ヒ北條氏ノ兵ヲ打チナヤマセマシタ。

豊臣秀吉

(四)豊臣秀吉ハ初メノ名ヲ木下藤吉郎トマウシマシタ。尾張ノ國筑阿彌彌助ノ子デ、二十二歳ノ時初メテ尾張ノ國主織

田信長ニ仕ヘマシタ。

日光山

(五)日光山ハ下野ノ國ニアリテ、徳川家康公ヲ祭ツタ宮ガアリマス。ソノ宮殿ノ美麗ナノト、山水ノ景色ガヨイノハ、東洋デイチバンデアリマス。

菅原道真

(六)菅原道真ハ心ガ正シク、智慧ガ深く、諸ノ學問ニ通ジタ人デアリマシタ。今ノ天神様

八道真公ヲマツタデアリマス。

第三十二課

左ノ趣意ヲ以テ文章ヲ作レ。

馬。

(一) 性質。

口効用。

ハ皮ノ効用。

林檎。

(二) 形。

口開花ノ時節。

ハ實ノ熟スル時節。

口味。

瓦。

(三) 製法。

口種類。

ハ用方。

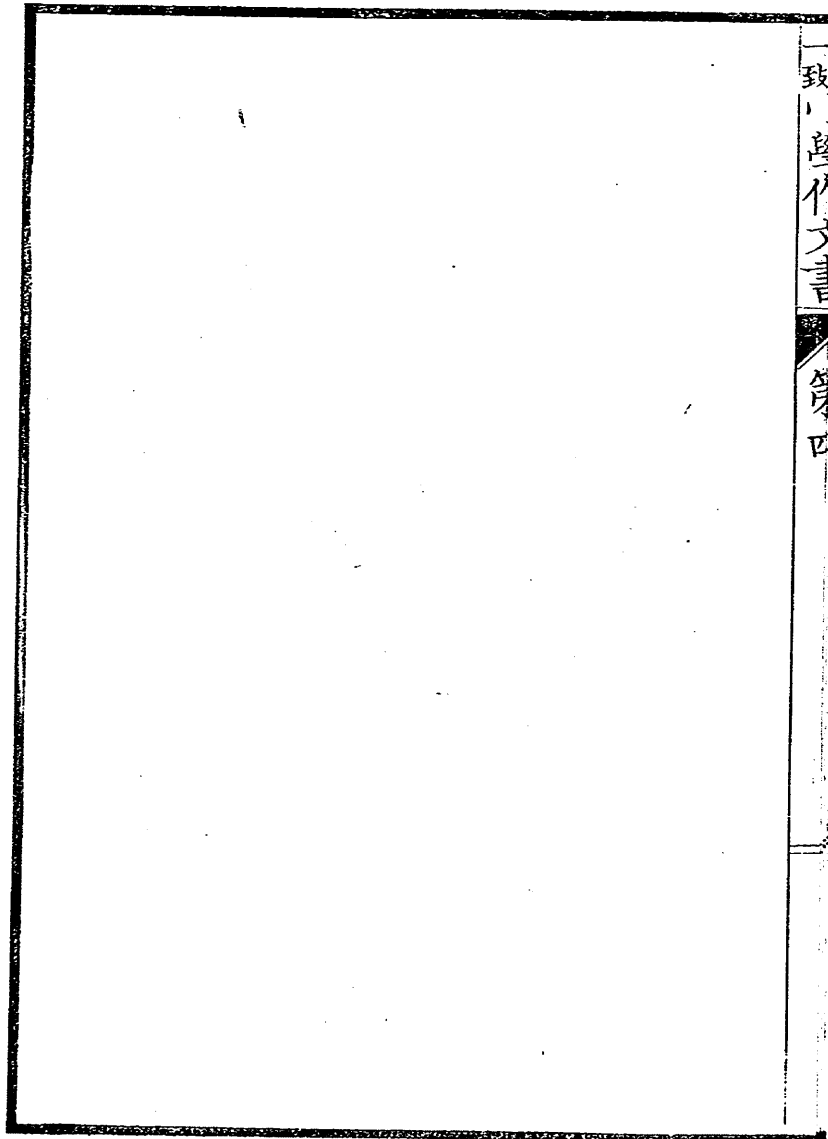
某村。

(四) 位置。

口境界。

ハ山川。

口產物。



第三十三課。 届書。

第一例。

欠席届。

私儀病氣に付本日出席仕る旨、此後  
御届申上由也。

第何年級。

何某。 (印)

明治三年三月三日。

何尋常小學校長何某殿。

第二例。

拾物届。

一懷中時計。

寺箇。

右ハ本日午前九時頃ニ町通行の節  
拾取ル所現示相添ハ股御届申上布也。

明治ニ年三月三日。

恒所。

何某 (印)

何警察署長何誰殿。

練習。

上ノ書式ニナラヒテ次ギノ居書ヲ書ケ。

- (一) 父病氣ニ付當日より一週間の欠席届。
- (二) 家内手不足に付十日間の欠席届。
- (三) 遺物届。
- (四) 改印届。
- (五) 寄留届。

第三十四課。願書。

例。

退校願。

何某。

右之者商業見習のため東京市へ遣へる間退学致させ度此故相致也。

恒所。

明治三年三月三日。

何某。

印

何小學校長何誰殿。

第三十五課。預り證書。

例。

金子預り證書。

一金貳百圓也。

右之金子正に預り申也。御入用の節は何時にてても相渡し申すべく也。後日のため其證伴の如し。

預り人。

姓名。

印

明治三年三月三日。

姓名殿。



練習。

上ノ書式ニナラヒテ次ギノ證書ヲ書ケ。

(一) 金百圓 (但し利率のまゝ) の預り證書。

(二) 金米五俵 (但し米俵に付 四斗三升八) の預り證書。

(三) 金五拾圓 (但し年利五分) の預り證書。

(四) 懐中時計 壹箇の預り證書。

第三十六課。借用證書。

例。

金子借用證書。

一金貳拾參圓也。但し年利を割五分也。

右之金子正に借用致し。然るに是來る

明治三年三月三日限り前書但し

書の利息お加へ相違なく返済致すべく

右後日のため其證據の如し。

明治三年三月三日。

借主。

姓 名 (印)

禮人。

姓 名 (印)

# 姓名殿。

練習。

上ノ書式ニテ次ギノ證書ヲ書ケ。

- (一) 金貳拾圓の借用證書。但し返済の期日は本年十二月三十日にして年利五割なり。
- (二) 金貳百五拾圓の借用證書。但し返済の期日は明年六月廿五日にして年利息なり。
- (三) 金四拾圓の借用證書。但し借用の當日より満

キテ年限りに返済の約束にて年利五割なり。

一致 言文 小學作文書第四終。

明治廿三年五月三日印刷  
全 年五月五日出版

定價十圓

東京市神田區表神保町十番地

學 園 會

編纂

東京市神田區佐久間町二丁目十八番地

森本芳之助

發行者

東京市日本橋區新大坂町十番地

小林喜右衛門

發兌兼  
印刷者

版權  
所有

